

併設校としての強みを活かし 相互実習でチーム医療を学ぶ ～札幌歯科学院専門学校の取り組み～

札幌歯科医師会立の専門学校である札幌歯科学院専門学校には、歯科技工士科と歯科衛生士科の2学科が併設されています。両学科の学生は、合同での実習や授業をとおして互いの専門性を学び、チーム医療に求められる知識や判断力を養っていきます。また、ダブルライセンスの取得を支援する取り組みも行われており、実際に両方の資格を取得して活躍している卒業生もいるそうです。

今月の特集では同校を訪問し、教育内容の特色やダブルライセンス取得のメリットなどについて、教務主任の村上珠緒先生にお話を伺いました。



札幌歯科学院専門学校
教務主任 村上 珠緒 先生

ダブルライセンス取得を支援

—— 近年、歯科技工士と歯科衛生士の二つの資格を取得する、いわゆるダブルライセンスが注目されています。貴校では、このダブルライセンス取得をどのように支援していますか。

村上先生（以下、村上） 取得支援としては、歯科衛生士または歯科技工士の資格保持者であり、本学院の卒業生の方は入学金を全額免除、本学院以外の卒業生の方は入学金を半額免除という支援制度がございます。

—— そうした支援のもとで、実際にダブルライセンス取得に挑戦した学生はこれまでに何名ほどいらっしゃいましたか。

村上 最近ですと、2018年度の卒業生が1名、2020年度の卒業生が1名、2022年度の卒業生が1名です。いずれもダブルライセンスとして歯科技工士免許を取得するために入学されました。

—— 二つの資格の取得を目指すとなると、やはり学習の負担も大きくなると思います。貴校ではダブルライセンス取得に向けて、カリキュラムや特別なサポート体制にどのような工夫をされていますか。

村上 しっかりとした技術を習得してもらうため、歯科技工士科は2年間、歯科衛生士科は3年間、通常のカリキュラムを学んでもらいます。また、歯科医師会立校として両科を併設している強みを活かし、相互実習に力を入れており、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士による

チーム歯科医療を学びます。

本学院は厚生労働大臣が指定する「専門実践教育訓練給付金」の支給対象講座となっています。雇用保険の加入歴がある等、一定の要件に該当する場合は、「専門実践教育訓練給付金」と併せて「教育訓練支援金（雇用保険基本手当の80%）」が受給できます。

—— ダブルライセンスを取得した卒業生は、その二つの資格を強みに、卒業後どのようなキャリアパスを歩むことが多いですか。

村上 歯科医院に勤務する学生が多いです。患者様の口腔内を歯科医師と分析・提案し、製作した補綴装置が口腔内にセットされるまでを、歯科技工士、歯科衛生士の両方の側面からサポートしています。

—— 二つの専門資格を併せ持つことには多くの利点があると思います。村上先生は、歯科技工士と歯科衛生士の両方の資格を持つことのメリットをどのようにお考えでしょうか。

村上 患者様に対して両職種の側面からアプローチ、フォローできることが最大の強みでありメリットと考えます。製作した補綴装置等が患者様の口腔内に装着され、どのように機能していくか、歯科衛生士として口腔の予防、指導を通じた口腔機能向上等、総合的な対応ができます。

—— 地域の医療人材育成を支援するための「地域医療総合確保基金」という制度がありますが、貴校では入学支援において、この基金を活用していますか。

村上 地域医療総合確保基金は使用しておりません。検討はしましたが、札幌

市の事業計画に歯科技工士学校が入るのは大変難しいのが現状でした。

—— 学生の学費負担を軽減するための支援策について伺います。奨学金や助成金など、貴校では具体的にどのような学費支援制度を用意していますか。

村上 まず、札幌歯科医師会奨学金制度という制度がありまして、進級時の成績上位者の選抜者に返還不要の奨学金を給付しています。

また、国の高等教育修学支援の対象校となっているほか、日本学生支援機構奨学金、札幌市奨学金、専門実践教育訓練給付金・教育訓練支援金、札幌市高等職業訓練促進給付金事業といった制度を使うことができます。

このうち専門実践教育訓練給付金・教育訓練支援金については、社会人からの入学者に対する支援制度となっています。

実践的スキル教育の特徴

—— 歯科技工士を育成するカリキュラムには学校ごとの特色が表れると思います。貴校の歯科技工士養成課程では、どのような特徴的なカリキュラムを組んでいるのか教えてください。

村上 本学院では2年間で基礎分野、専門基礎分野、専門分野を合わせて69単位を取得してもらいます。

1年次に基礎をしっかりと学び、さらにCAD/CAM冠、天然歯カービング、マウスガード、口腔内スキャナーなどの

実習を行います。2年次では臨床的な模型を用い、フルデンチャー、パーシャルデンチャー、ブリッジ、インプラントなど歯科医師に評価してもらう実習を取り入れています。

また、メーカーの方にご協力いただき3Dプリンターを用いたフレームの設計およびプリントの実習を行ったり、海外から先生をお招きしてジルコニアステインの実習を行うなど、特色ある様々な授業を行い高い技術力を学ぶことができます。

—— 即戦力となる人材を育てるには、実際の現場を意識した教育が欠かせません。貴校では現場に即した教育を行うために、具体的にどのような実習や研修プログラムを取り入れていますか。

村上 1年次に歯科医院へ見学に行くほか、2年次には歯科医院、歯科技工所、大学病院などの各施設で臨床見学実習を行い、実際の医療現場を体験してもらいます。また歯科医師の指示のもと歯科技工物を製作し、製作後に歯科医師に評価してもらうという実習も取り入れており、現場に即した教育になっているのではないかと考えています。

—— 歯科技工士の養成過程において、学生たちが特に難しいと感じる分野や技術はどこでしょうか。また、その克服に向けてどのようなサポートや指導を行っていますか。

村上 多くの学生が歯型彫刻に苦労しているようですので、毎朝、カービングを行う時間をつくり、繰り返し訓練しています。

—— 近年、CAD/CAMをはじめとするデジタル技工分野の技術革新が著しいですね。貴校では、そういった最新のデジタル技工技術を教育にどのように取り入れていますか。

村上 CADのパソコン16台、CAM機1台、3Dプリンター1台を導入しており、1年次にはCAD/CAM冠を製作しているほか、歯科技工所の方にご協力いただき口腔内スキャナーも体験します。

2年次には3Dプリンターを用いたフレームの設計およびプリント、ジルコニアクラウンの設計からステイニングまで実習で行っています。

—— 学生に確かな技術を身につけてもらうためには、教育側のさまざまな工夫が必要になると思います。貴校では学生の技術習得度を高めるために、具体的にどのような取り組みや指導法を行っていますか。

村上 繰り返し練習することが大切だと思っていますので、朝や放課後、さらに休みの期間なども利用して、練習できる環境を整えています。

また、実技試験において目標を設定し、その目標を達成することで技術力が高まると考えていますので、妥協せずに目標達成できるまで何度も練習を行うようにしています。

—— 本誌2024年10月号に、九州の博多メディカル専門学校への取材記事を掲載しました。今回は北海道との対比という意図も含めて取材させていただきましたが、あの特集記事をご覧になってどのように感じられましたか。

村上 全国の歯科技工士教育機関の中でも入学希望者が多く集まる学校として存じ上げていましたので、大変興味深く拝読させていただきました。

本学院は歯科医師会立校ですので規模は違いますが参考にさせていただき、多くの学生から選ばれる学校を目指していきたいと感じました。



札幌歯科学院専門学校（北海道札幌市）



教室の様子

—— 地域性や教育方針の違いなど、参考になる点や、共感された点があれば教えてください。

村上 まず、高校や企業との信頼関係を構築されているという点に共感いたしました。本学院も高校訪問に伺う際には、高校の先生方に学生の学校生活の状況や就職した報告などをするよう心掛けています。また本学院も卒業生を講師として招き授業を通して交流を深めてもらい、地域企業の方たちのお力を借り教育に携わっていただいております。

参考になる点は本当に多々ございましたが、特に印象に残っているのは学生一人ひとりの将来をしっかりと考えられている先生方の熱意です。それぞれの長所や優れていそうな資質を伸ばしていったらいいという思いと熱意が伝わってきました。

地域で活躍する卒業生

—— 北海道内には歯科技工士養成校が3校ありますが、いずれも札幌市内に集中しています。地方出身者（親元を離れている学生）の割合は、現在どの程度でしょうか。

村上 その年により変動がございますが、令和6年度は1、2年生合わせて約38%です。例年およそ30～40%程度の割合で地方出身者がおります。

—— 地方出身の学生に見られる意識の違いや、札幌圏出身の学生との間に感じられる特徴があれば教えてください。

村上 地方出身の学生の最近の傾向は、学生会館や寮に入るのではなく一人暮らしをする学生がほとんどです。学校の勉強や実習が大変な中、洗濯・掃除・料理などの家事を行い、さらにアルバイトにも行き、本当によく頑張っていると思います。

意識や特徴の違いとしては、就職活動の際にみられる傾向がございます。札幌

の学生はまずは実家から通いお金を貯めたいという理由で、実家から通える場所を希望する学生がほとんどですが、地方出身の学生は引っ越すことに抵抗があまりなく、場所を自由に選択しているように思います。

—— 卒業後の進路は学校選びの重要なポイントだと思います。貴校の卒業生の就職率はどのくらいで、主にどのような業界や職種に進んでいますか。

村上 就職率は100%です。進路としては札幌市内の歯科技工所に就職する割合が多く、歯科医院への就職者もいます。

—— 札幌や北海道といった地域の歯科医療の現場で、貴校の卒業生たちは具体的にどのような役割を果たしているのでしょうか。

村上 大学病院、総合病院において歯科技工士として勤務し、地域歯科医療へ貢献しています。

—— 貴校では歯科技工士と歯科衛生士の両方の資格者を育成していますが、卒業後に歯科技工士としてキャリアを積む方と歯科衛生士として活躍する方の割合はどのくらいですか。

村上 2025年3月までに歯科技工士は1,471名、歯科衛生士は3,238名の卒業生を輩出しています。

—— 地域の歯科医院や歯科技工所との連携は、教育や就職支援において重要な役割を果たすと思います。貴校では具体的にどのような形で地域の歯科医院や歯科技工所と連携を図っていますか。

村上 臨床見学や臨床見学実習において毎年、実習生を受け入れていただき、その際に報告会を行って連携を深めています。

—— 多くの卒業生がさまざまな分野で活躍されていることと思いますが、その中でも特に印象に残っている卒業生の成功事例やエピソードがあれば教えてください。

村上 特に印象に残っている成功事例という考えはございません。歯科技工所



卒業式の様子

の経営のほか、大学病院・総合病院・材料メーカーなどへの勤務、歯科技工所の役職者、全国の歯科技工士教育機関の教務職員など、幅広い分野で多くの卒業生が活躍しています。

情報発信の工夫

—— 歯科医師会立の学校は私立校に比べて人員や予算に制約があるかと思います。そうした中で、学生募集に際しての広告展開やSNSの運用などで工夫されている点があればお聞かせください。

村上 広告に多くの予算を取ることができないので、SNSにおいてInstagramをメインに運用しており、事務局の広報担当者がこまめに更新をしてくれています。

また、夏休みなどを利用して教務が市内・道内の高校を訪問し、学生たちの様子を高校の先生方に報告しています。

—— 学校の魅力を伝える場として、オープンキャンパスや体験授業の開催は重要ですね。貴校ではそれらをどのくらいの頻度で行い、またどのような内容を提供していますか。

村上 オープンキャンパスは月に1～2回、年間で15～18回程度開催しています。

また、幼稚園から高校生に向けて職業体験事業も行っています。体験内容はレジキーホルダー製作やパーシャルデンチャー製作、CAD/CAMの設計など、回数や対象者に応じて変更しています。

さらにオープンキャンパスの参加者に対



し、キャリアコンサルタントの国家資格を持つ担当者が進学相談に乗っています。

—— 高校生や社会人向けには、どのような情報発信をされていますか。

村上 高校に出向いて、高校での職業紹介や体験授業などを行っています。そのほか、学校生活の様子をInstagramにて発信したりもしています。

—— 歯科技工界では人材不足が大きな課題として指摘されています。教育機関である貴校として、この人材不足の問題にどのように取り組んでいますか。

村上 行政や関係団体等と連携して職業体験事業（インターンシップ）を行い、歯科技工士の認知度を上げる活動を行っ

ています。—— 今後の教育カリキュラムの充実や設備の拡充について伺います。現時点で何か新たに予定されている取り組みや計画があれば教えてください。

村上 カリキュラムは令和5年度より新カリキュラムに変更したところです。設備に関しても、実習室の改修からはじまり、CAD/CAM設備の拡充、3Dプリンターの導入、トイレ、ドア、エレベーター、学生玄関、外壁など、設備等の拡充、改修が一段落したところです。

—— 村上先生は、私と同様に北海道歯科技工士の会

の常務理事としてもご活躍されています。養成校の教員が歯科技工士の会の理事に就任することで、どのような相乗効果があるとお考えですか。

村上 学生たちにとって歯科技工士会というのは遠い存在であると思います。しかし私たち教員が歯科技工士の会の理事として関わることで、日常的に歯科技工

士の会の活動などを話す機会があり、その存在や意義を少しでも身近に感じ興味を持つきっかけになってくれるのではないかと考えています。

私は歯科技工士という仕事は専門的な技術と知識が必要な国家資格であり、人の健康を守るために多大な貢献をしています。その歯科技工士という仕事や地位を守り向上させていくのは歯科技工士自身であり、学生たちのために活動することも教員の務めだと考えています。

—— 学生教育や業界全体の未来に対し、歯科技工士の会との連携をどう活かしていきたいとお考えですか。

村上 昨今、歯科技工士の人材不足が大きな問題となっており、本学院でも入学希望者を集めるのに苦慮しております。そのため歯科技工士がどれだけ魅力ある仕事なのかということを、歯科技工士の会と連携し国民全体に普及活動していければと考えております。そして一人でも歯科技工士を目指したいと思う若い方が増えることで、活気に溢れる歯科技工界を目指していきたいと考えています。

—— 本日はありがとうございました。

2024年10月号で特集した博多メディカル専門学校に続き、歯科技工士養成校取材の第2弾として札幌歯科学院専門学校を訪問しました。北海道における歴史ある養成校の一つであり、これまで多くの歯科技工士・歯科衛生士を輩出してきた同校では、歯科技工士と歯科衛生士の両方の国家資格を取得できることが大きな特色の一つです。併設校ならではの実践的かつ相互的な学びの環境が整えられており、現場で求められるチーム医療の意識を学生時代から養うことができる点が印象的でした。

また、CAD/CAMや3Dプリンターなどの最新技術を取り入れた教育や、丁寧な基礎練習の積み重ね、地域との連携による臨床実習など、学生一人ひとりの成長を支えるための

工夫が随所に感じられました。卒業生の皆様にとっても、今の母校の姿を知る良い機会となったのではないのでしょうか。

今後も『日本歯技』では、全国の養成校を取材対象として取り上げていく予定です。母校を紹介してほしいというご希望がありましたら、ぜひお知らせください。読者の皆様とともに、技工士教育の“今”と“未来”を見つめ続けていきたいと思っています。



取材者

広報企画委員会

藤王千春